大谷園林保育園の取り組み　VER.１２（２０１９．９．１）

～令和元年度４・５歳児編　其の１　遊びの中での学び「水・泥遊び」～

保育園では、いつもの遊びや生活の中にも、常に新しい発見があります。感じたことを友達や保育者に伝え、一緒に考え、協力し、したいことを実現して、喜びを共感しています。幼児期に、楽しいことや好きなことに集中して遊びながら学ぶことはとても大事で、学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探求心を培い、学びの芽生えを育んでいます。

今回の「大谷園林保育園の取り組み」では、夏の遊びにおいてどのような学びが潜んでいるのかを紹介したいと思います。

暑い日は、戸外で泥や水に触れ、夏ならではの遊びを楽しみました。始めは保育者の真似をして一緒に手で触れ、どろどろの感触を楽しんだり、泥を手や足につけたりすることを楽しんでいました。だんだん慣れてくると、裸足になり、穴を掘って水を入れてみたり、泥場に足を入れてジャンプして水しぶきをあげたりしてダイナミックに全身で泥や水の気持ち良さを感じるようになりました。直に触れて遊ぶだけではなく、ペットボトルやといなどの道具を使って、水の量を変えたり、流してみたりなど様々に試して遊ぶことも楽しみました。水しぶきの音や流れる様子などを面白がり、じっくり集中し、繰り返し楽しみました。

《ものとの関わり》

泥や水の気持ち良さが安定につながり、手足で直に触れることで脳が刺激され、視・聴・触の感覚を高め考える力を引き出します。

また、「パシャパシャ」と水しぶきの音を聞く、水が流れる様子を見るなど五感をじっくりと使って遊びました。

「面白いね～」「気持ちいい」「水が出てきた」と言葉で気づいたことを表現し、遊びに没頭していました。

言葉　自然・生命　健康　感性・表現

《自分との関わり》

といに大量の水を入れ、水が流れることや溢れ出ることをなどを面白がり、といの角度や方向を変えたり、水の入れ物をバケツやペットボトルに変えるなど試行錯誤を繰り返しました。また、泥を「コーヒーみたい」「どろどろカレーの出来上がり」など、いろいろなものの見立てでイメージをもって遊ぶなど、新しい発見や発想が出てきました。

感性・表現　思考力

《人との関わり》

４歳児が５歳児の遊んでいる姿を見て、「やりたい」と真似をして遊び始めました。

遊びの中では、「○○くん、水汲んできて～」「まだ、流さないで」「こっち、掘ろう」など、自分の思いを相手に伝えたり役割分担しながら遊ぶ姿が見られました。時にはトラブルになることもありましたが、自分と違う思いがあることに気付き折り合いをつける経験となりました。

共同性　自立心　言葉　感性・表現

「学びの芽生え」を育みます！